

## がん研究奨励賞 (林原・山田賞)



菊地 寛次

## 略 歴

平成16年4月1日 岡山済生会総合病院 初期研修医  
平成18年4月1日 広島市立広島市民病院 外科 後期研修医  
平成20年4月1日 姫路中央病院 外科 医員  
平成22年10月1日 岡山大学病院 肝胆膵外科 医員  
平成23年4月1日 北川病院 外科 医員  
平成25年10月1日 岡山大学病院 消化管外科 医員  
平成27年1月4日 テキサス大学MD Anderson Cancer Center  
Melanoma Medical Oncology Research Intern  
平成27年4月1日 岡山大学 医学部 消化器外科学 客員研究員  
平成28年10月1日 岡山大学病院 低侵襲治療センター 助教

## 研究論文内容要旨

現在、リンパ節転移のない早期消化管癌は内視鏡治療により根治可能である。しかし、早期癌のうち粘膜下層浸潤癌では、10%以上のリンパ節転移リスクがあるため、予防的リンパ節郭清を含めた開腹手術が標準治療である。そこで本研究では、そのような患者に対して、より低侵襲的な方法で転移リンパ節を治療し、予防的開腹手術を回避する治療法を開発した。我々は、緑色蛍光蛋白（GFP）で標識したヒト大腸癌細胞をマウス直腸の粘膜下層に移植し、センチネルリンパ節転移を有する同所性マウス早期直腸癌モデルを確立した。臨床の内視鏡的治療の要領で、腫瘍溶解ウイルスを含んだ溶液を腫瘍周囲の粘膜下層に注入した後、直腸腫瘍の切除を行った。治療7日後、転移リンパ節は完全に消失していた。さらに、治療4週間後においても再発は認めなかった。この結果から、腫瘍溶解ウイルスによる治療は転移リンパ節を選択的に治療し、粘膜下層浸潤消化管癌の患者にとって、手術にかわる新たな低侵襲治療になる可能性が示唆された。